

MACF礼拝説教要旨

2025年3月9日

【恵みの福音】

フィリピの信徒への手紙3章1～11節

1では、わたしの兄弟たち、主において喜びなさい。同じことをもう一度書きますが、これはわたしには煩わしいことではなく、あなたがたにとって安全なことなのです。

2あの犬どもに注意しなさい。よこしまな働き手たちに気をつけなさい。

切り傷にすぎない割礼を持つ者たちを警戒しなさい。3彼らではなく、

わたしたちこそ真の割礼を受けた者です。わたしたちは神の靈によって礼拝し、

キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。

4とはいって、肉にも頼ろうと思えば、わたしは頼れなくはない。だれかほかに、肉に頼れると思う人がいるなら、わたしはなおさらのことです。

5わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、

6熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。

7しかし、わたしにとって有利であったこれらのこと、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。

8そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、

9キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

10わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、

11何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

フィリピの教会のなかにもたらされた混乱についてパウロは心配し、彼らに励ましの言葉をかけています。

1) 主において喜びなさい

イエス様との関係を喜ぶこと、イエス様に知られ、イエス様に愛されていることを喜ぶことこそ生きる力に通じていることをパウロは自分の生き方の中に確信しています。

2) 喜べないと思われる問題

フィリピの教会の人たちはユダヤ人以外の人たちが集まっていましたから、いわゆる旧約聖書の中に教えられている週間、風習を知らない人がたくさんいたでしょうし、ユダヤ人にとっては当たり前になっている儀式などについても、それほど熱心に実行しようとはしていなかったと思います。

しかし、フィリピにクリスチヤンがいるという話を聞いて、彼らのところを訪問するユダヤ人のクリスチヤンたちが

増えてきて、しかも指導者という肩書きをちらつかせて訪問し、いくつかの疑問が投げかけたのです。

あなた方はクリスチャンだというけれど「割礼は受けたのか」「律法は学んだのか」「ユダヤ人にとって大切な祭りを実行しているか」など
イエス様の一方的な恵みによる救い、許しのメッセージを「信じるだけでは足りない」と感じさせる
圧を感じさせる何かがあったのです。

3) あの犬どもに注意しなさい。よこしまな働き手たちに気をつけなさい。
パウロは露骨な言葉でそれらの人たちからの脅かしに警告を発しています。
真理を教え、キリストの愛に気づかせる役割を果たすどころか、犬のように吠えて威嚇し、
足りないところばかりを指摘し、不安にさせるだけの教師たちに注意するようにと宣言している
のです。
救われているか、信仰が十分なのかの判定する役人のような態度でやってきて、足りないところだけを指摘する
偽教師の存在は今も昔も変わらないように思います。まるで神様から遣わされた裁判官のように
振る舞い、不足している
部分ばかりを責め、喜びに導かず、苦役、不安に陥れて、さっさといなくなってしまうのです。

私たちの救いはただただイエス様の十字架と復活、そして、私たち一人一人に届けられている
神の恵みを「信仰によって受け取っている」ことだけで十分なのです。
救われるための「行動やお返し、義務や支払い、善行や修行」は要らないのです。
それでも祈り礼拝するのは「信じた者にもたらされる恵みの深さを味わう」ためです。

救いは「神が私のために御子イエス・キリストをお遣わしになり、私を愛し、私の罪を赦すために
苦しみを担い、十字架で死なれ、復活し、永遠の命の希望を与えてくださった」という
神からの働きかけ自分への出来事として信頼することだけでもたらされるのです。
救われるための費用は要りません。救われるための頑張りも修養も不要です。
自分が神様から離れた生活をしてきたことを認め、つまり、罪ある者と認め、
イエス様による赦しを願い、イエス様を信頼すること。それに尽きります。
割礼も、洗礼も、律法の遵守も、救いの条件ではありません。
むしろ、救いを体感し、感謝しながら歩むステップとして洗礼があり、教会での礼拝や
学びがあるという順番です。でも、救いの後の出来事も、それらがなければ救われないということ
はありませんから、心配しなくて良いのです。それについての促しは神様が
心にもたらしてくださるでしょう。

それらの犬のような教師たちに対して、パウロは、肉的な内容では彼らの言い分を超える
何かを持っていることを披瀝しています。
しかし、そういう自分の誇りよりも、キリストを知り、キリストに知られていることの
意味深さ、重大さは、なものにも代えられないものだと証しています。

キリストを信頼し、キリストの愛を深く知るようになったパウロの心からの思いは

8そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、
今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、
それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、
9キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、
キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。
10わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあづかって、
その死の姿にあやかりながら、
11何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

律法を守ることでの救いを求めるのではなく、キリストとの深い交わりの中に
身をおいて、さらに深くその十字架と復活の意味を知り、キリストの心が
自分の人生に全て表明されるような生き方をしたいとパウロは語っています。
この直線的な意識は大切ですね。
救いは私たちの行いによるのではなく、恵みにより信仰によって受け入れれば良いのです。
@
youtubeでの映像はこちらです。

https://youtu.be/7WAJKFL-SdM?si=0AKcd26z_gkEUtRB